

議員研修報告書

報告者 (会派等) 創政・改革クラブ

1. 研修期間	令和5年10月30日（月） 令和5年10月31日（火）	
2. 研修テーマ	混迷する国際社会のなかで、食料やエネルギーの安全保障は脆弱化の一途をたどり、それに伴う物価高で市民の日常生活や経済活動は一段と厳しくなっている。地場産業の衰退にもつながりかねない現状において地域が抱える課題はより深刻さを増しており、世界平和都市宣言を謳う国際観光都市高山市は、市民生活の安寧をどう担保すべきなのか。	
3. 研修項目	1. 全体会「長崎からアジアの平和を展望する」 2. 第一分科会「食糧安全保障の推進と食の安全について考える」 3. 第二分科会「子どもの貧困問題と後退する社会保障」	
4. 講師	1. 全体会：孫崎亨(うける)氏 ※東アジア共同体研究所長，元外務省情報局長 2. 第一分科会：鈴木宣弘氏 ※東京大学大学院教授 3. 第二分科会：小西祐馬氏 ※長崎大学教育学部准教授	
5. 研修内容	ア. 概要	《全体会》 ① 沖縄戦遺骨収集ボランティア・ガマフヤール具志堅隆松氏発表 ② 若者による長崎からの平和メッセージ ナガサキ・ユース代表団 長崎大学多文化社会学部 猪原彩美さん ③ 被爆体験者の全面救済に向けて 被爆体験者訴訟原告団 ④ 戦争準備・基地強化が進む各地の実態報告 《第一分科会》 ① 食料安全保障推進法に向けたネットワークの形成を 東京大学大学院教授 鈴木宣弘氏 ② 食の安全と無償オーガニック給食実現を 元農林水産大臣・弁護士 《第二分科会》 ① 子どもの貧困問題と後退する社会保障 長崎大教育学部准教授 小西祐馬氏 ② 糸満市の事例発表：沖縄県における子どもの貧困対策について ③ 郡山市の事例発表：子ども食堂の取り組みについて ④ 和歌山市の事例発表：ヤングケアラーの実情

	イ.内 容	※別添付資料
	ウ.課 題	○米国が北朝鮮を絶対に責めないと言えば、北朝鮮は核武装しないという講師発言は、どの程度信頼のおける根拠があるのだろうか。 ○かつて「一人の命は地球より重い」とテロ組織との取引に応じた日本政府への講師の賞賛があり、自分もそれは評価するが、成功体験を得るテロの再犯を防ぐ手立てはどうすればよいのか。より多くの生命が失われる可能性をどうとらえればよいのか整理がつかなくて困っている。 ○オーガニック給食への転換を求めるのは良いことだとしても、生産者が移行していくことに対する保証をどう取ればよいのか。そもそも生産者は足りるのか。 ○子どもの貧困について、現金給付の増額しかないといった分科会の結論にも聞き取れたが、それは緩和の一助にはなっても根本的解決にはつながらないのではないか。
6. 今後に活かしたい学び		○「核の傘」は幻想。実際には存在しない。 ○農薬の基準は国で定めるが、別途自治体でさだめることも可能。それくらいしないと、わがまちの食の安全は守れない。 ○改定育苗法に対しても、私たちは条例で対抗できる。 ○現金給付は、子どもの貧困解消にとって維持的な緩和策でしかない。 解決には様々な機関や施設の充実、および社会の“つながり連携”のなかで支援するしかなく、そのコーディネートができるのは基礎自治体しかないのではないだろうか。